

平成21年度
全国学力・学習状況調査
分析結果報告書

千葉県学力向上専門委員会

平成22年3月

はじめに

平成19年度から始まった全国学力・学習状況調査は、今年度で3回目となり、教科に関する調査と児童生徒質問紙、学校質問紙調査を実施し、千葉県では調査の対象となる児童生徒が在籍するすべての公立の小中学校及び特別支援学校で実施している。

すでに、平成21年度の公立学校における調査結果概要は、昨年度までと同様に「正答数・正答率の平均値はともに全国とほぼ同じであり、児童生徒の正答数の分布状況も、全国とほぼ同じである」と、昨年9月に教育庁教育振興部指導課より発表されている。

本報告書は、千葉県学力向上推進委員会のもとに学力向上専門委員会を置き、過去2回の結果をふまえ分析し、千葉県としての課題やこれに対する具体的な取組を示した。教科に関する調査だけでなく、児童生徒・学校の質問紙調査との関連についても分析しているので、ぜひ参考にしていきたい。

市町村教育委員会や各学校においては、児童生徒の学力や生活の状況を把握・分析し、学力向上に役立てることが重要であり、国語、算数・数学の2教科に限らず、社会、理科など他教科や総合的な学習の時間等における思考力・判断力・表現力等を高める授業づくりや言語活動、家庭での学習などに積極的な取組をお願いしたい。

文部科学省の報告書では、児童生徒自身の「家庭での生活・学習習慣、学校での学習態度が学力に大きく関係している」としている。本県の児童生徒は全国に比べ、早寝・早起きの割合が全国より高いこと、家で宿題をする割合が低いこと、携帯電話を持っている割合が特に高いことなどがわかっている。本県の分析でも家庭での生活習慣が児童生徒の正答率と関係が高いことがわかっている。

県教育委員会では、学力の向上のため「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの普及、読書活動の推進、「特色ある取組シート」の利用、家庭学習の推進等を取り組んでおり、県教育委員会のホームページから具体的な取組を見ることが出来る。また、今年度、中学校1年生向けの「ちばのやる気」学習ガイドを作成し配付すると聞いている。生徒にわかりやすい言葉で5教科の学習到達目標を示しており、到達についてチェックできる問題もあり、ぜひ、来年度から積極的に学校や家庭で活用を図ってほしい。

平成22年度全国学力・学習状況調査は調査方式が変更され抽出調査及び希望利用方式となるが、「調査問題は新しい学習指導要領に対応し、文部科学省からのメッセージを含んでいる」と聞いており、授業での教材としての利用も含め、今まで以上に活用し、学力向上や授業改善に取り組むことを期待する。

平成22年3月15日

千葉県学力向上推進委員会会長
千葉大学教育学部教授 伊坂 淳一

目 次

はじめに

「平成21年度全国学力・学習状況調査」の結果	1
1 「全国学力・学習状況調査」の概要	1
2 結果の概要	1
3 今後の対応	3
教科に関すること	4
1 小学校国語に関すること	4
学校で取り組んでほしいこと	12
2 小学校算数に関すること	20
学校で取り組んでほしいこと	28
3 中学校国語に関すること	30
学校で取り組んでほしいこと	40
4 中学校数学に関すること	43
学校で取り組んでほしいこと	54
児童生徒質問紙と教科に関する調査の関連について	57
学習状況に関すること	58
学校質問紙に関すること	82
参考資料	91
1 学校平均正答率の分布	91
2 A領域とB領域の相関	92
3 全国と千葉県における正答数層別割合の変化について	93
4 学力向上のための取組	96